

沖縄県における軟質菌10種について

琉球大学農学部 小西 張夫・大宜見朝榮
元滋賀大学教育学部 本郷 次雄

1. はじめに

亜熱帯性気候に属する沖縄は、その気候性から種々の軟質菌（多くはハラタケ目）が産する可能性がある。しかし、沖縄産軟質菌に関する研究はそれほど進んでおらず、戦後の報告を調べると、1953年に内藤喬がシイタケ、アラゲキクラゲ、シメジについて¹⁾、また、1958年～1971年にかけては琉球大学の宮城元助が、計130種程の軟質菌（約40種が液浸標本として琉球大学に保管）について報告^{2,3,4)}している。その後は、1974年、キアミズキンタケ⁵⁾、1979年、オオシロアリタケ⁶⁾、1981年、ニオウシメジ⁷⁾などの報告があるだけである。そこで、筆者らは1987年より沖縄本島を中心に軟質菌の採集、同定を行っているが、今回は1988年8月に琉球大学与那演習林周辺のイタジイ林で採集したのものについて同定を行った。

2. 同定の方法

採集した資料は肉眼の特徴を記録したあと乾燥標本とし、顕微鏡の特徴は後日、薄片を70%アルコールで処理後、2.5%のKOH液でマウントし、胞子は1500倍、シスチジア等は800倍で検鏡した。また、胞子についてはアンモニアで処理後、Melzer液で呈色反応を調べた。これらの結果をもとに同定し、本郷次雄が確認した。

3. 結果と考察

採取した33種のうち、種まで同定できたものは22種で、その中で沖縄から未報告と思われる10種について報告する。なお、以下に述べる特徴はすべて採集個体のものである（図-1）。

1) *Marasmius purpureostriatus* Hongo スジオチバタケ。傘は径1.3cm、半球形、地色は淡滞黄色で、淡褐紫色の放射状の溝がある。ひだは黄白色で、11～12枚。柄は7～9.5cm×1mm、中空、茶褐色、上部は白色、表面は微毛に覆われ、根もとは粗毛に覆われる。

胞子は長大な棍棒形、31×6.5μm。縁シスチジアは20～25×10～12μmで囊状。イタジイの落葉から発生。

2) *Amanita vaginata* var. *Punctata* (Cleland & cheel) Gilb オオツルタケ。傘は径5cm、表面は灰色で、中央部は灰褐色、白色の膜片つけるものもあり、周辺には放射状の条線がある。ひだは白色で暗灰色に縁どられる。柄は中空で、10cm×8mm、上方にやや細まり、淡灰色、表面には暗灰色微粉状のだんだら模様がある。基部には白色膜質のさや状のつばがあり、深く地中に入る。胞子は球形で、径10～12μm。

3) *Amanita neovoioidea* Bas シロテングダケ。傘は径12cm、丸山形、表面は白色で粉質物に覆われ、淡黄土色の大きなつばの破片が残存し、縁部にはつばの残片が垂れ下がる。ひだは白色、密、縁部は粉状。柄の表面は綿くず状のささくれがあり、根もとは紡錘状、淡黄土色で、つばの内層が見える。つばは白色、膜状で細かく破れ、手でつまむと消失する。胞子は楕円形で9.5×6μm、アミロイド。

4) *Amanita cokeri* (Gilb. & Kuhn.) Gilb. f. *roseotincta* Nagasawa & Hongo ササクレシロオニタケ。傘は径9cm、ほとんど平らで、淡黄土色、表面はうろこ状で、その先にやや永存性のいぼをつける。肉は白色で堅く丈夫。ひだは白色、密、縁部は粉状。柄は11cm×12mm、基部は紡錘状にふくらみ、そりかえったうろこ状のささくれが多数つくが、上方に向かい小形不明瞭となる。つばは頂生し、永存性、上面には条線がある。胞子は楕円形、8.5×6.5μm。アミロイド。

5) *Boletus subcinnumomeus* Hongo サザナミイグチ。傘は径5cm、平たいまんじゅう形、表面は微細なピロード状、明褐色、湿ると多少粘性がある。肉は厚く、切ると淡黄色から徐々に黄色に変化する。管孔はやや上生、オリーブ黄色。孔口は中形、1個/mm、角張る。柄は6×1.1cm、同幅、淡黄色、表面はわずかに微粉状、基部の菌糸体は黄色。胞子は類紡錘形で、10～11×4～4.5μm。縁シスチジアは50～60×6～7.5

Haruo KONISHI, Choei OGIMI (Col. of Agric., Univ. of the Ryukyus, Nishihara, Okinawa 903-01) and Tuguo HONGO (Formerly Fac. of Educ., Shiga Univ., Shiga 520)
On ten species of higher fungi from Okinawa prefecture

μmで、類棍棒状、先端には微突起がある。

6) *Tylopilus vinoso-brunneus* Hongo ブドウニガイグチ。傘は径6~10cm, まんじゅう形 ワイン褐色。肉は白色で、切ったり傷つけたりするとわずかにピンクがかかる。味は苦い。管孔は直生, ピンク。孔口はやや小形, 2個/mm。柄は8~10cm × 15~25mm, 同幅または下部に向かって太まる。傘と同色または黄褐色。基部の菌糸体は白色。胞子は8.5~9.5 × 4~4.5 μm, 類紡錘形。側シスチジアは40~50 × 10~14 μm, 先の尖った狭紡錘形, 縁シスチジアやや小形。

7) *Russula flavida* Frost & Peck apud peck ウコンハツ。傘は径3.5cm, うこん色。平らで中央部がくぼみ, 表面は粉状。ひだは離生, やや密, 白色。柄は傘と同色, 2.2cm × 7mm, 表面に縦じわあり, 内部は海綿状。肉は白色で不快臭あり。胞子は8 × 6.5 μm, 類球形, 表面には刺状突起と網目模様あり。縁シスチジアは40~46 × 6~7 μm, 狭紡錘形で先端が尖る。

8) *Lactarius pterosporus* Romagnesi ウスイロカラチチタケ。傘は径6.5~12cm, まんじゅう形からややじょうご形, 表面は微粉状, 灰黄褐色~灰褐色, 所々黒色のしみがある。肉は白色, 切るとすぐ紅変する。乳液は白色で乾くと赤くなり, 辛味あり。ひだはやや密, 帯肉桂色。柄は5~7cm × 15~25 μm, 淡肌色~淡灰褐色。内部はやや海綿状。胞子は9 × 10 μm, 類球形, 表面には荒い少数のいぼと帯状の隆起がある。縁シスチジアは30~40 × 5~7 μm, 狭紡錘形。

9) *Lactarius subplinthogalus* Coker ヒロハウスズミチチタケ。傘は径3.5cm, 中央部の尖ったまんじゅう形, 縁部に放射状のしわがある, 肌色。乳液は

白色, 傷つけた部分を赤変させ, 辛味がある。ひだは直生, 極めて疎, 淡肉桂色。柄は3.5~4.5cm × 7mm, 同幅, 肌色, 中心に随がある。胞子は13 × 12 μm, 類球形で, 表面に荒い突起と帯状の隆起がある。縁は20~24 × 5~7 μm, 棍棒形。

10) *Lactarius zonarius* (Bull.) Fr. キカラハツモドキ。傘は径5~7cm, ややじょうご形, 表面は湿っているとき粘液に覆われ, 淡黄土色で, 数個の濃色の環紋がある, 肉はかなり厚く緻密, 白色。乳液は白色で不変色, 強い辛味がある。ひだは垂生し, 白色, 密。柄は2~3cm × 15mm, 中空, 白色で淡黄土色の月面クレーター状のくぼみがある。胞子は7 × 6 μm, 類球形, 太い網目がある。側シスチジアは60 × 10 μm, 狭紡錘形で先端がやや尖る。縁シスチジアはやや小形。

以上, 今回同定されたものの中には, 特に熱帯性のものはなく, 今までに採集されたものの中にも目立って熱帯性のものが多いとは思わない。今後, さらに採集調査を行い, 沖縄における軟質菌のフロラならびに分布を明らかにする必要があると思われる。

引用文献

- (1) 内藤 喬: 鹿大文理学科報告Ⅱ, 1~90, 1953
- (2) 宮城元助: 琉大文理学期要理学篇 2, 35~40, 1958
- (3) ———: ——— 7, 54~70, 1964
- (4) ———: 沖縄生物学会誌 7, (9) 33~37, 1971
- (5) 大谷吉雄: 日菌報 15, 243~245, 1974
- (6) ———: ——— 20, 195~202, 1979
- (7) 長沢栄史, 本郷次雄: ——— 22, 181~185, 1981

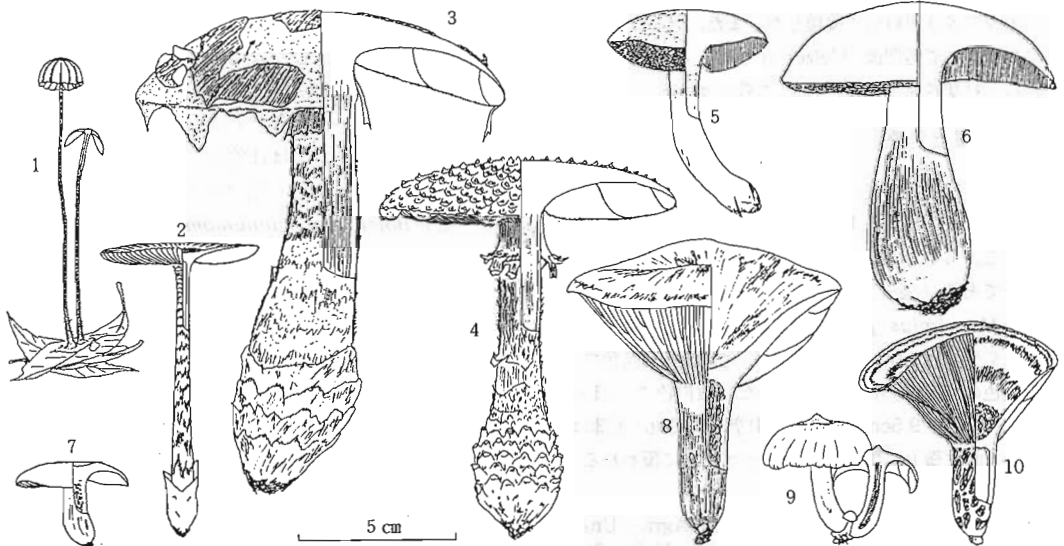


図-1 採集個体のスケッチ (番号は本文に該当)